

前回の委員会後に個別にいただいた意見等

①吉川委員

先日の行政改革推進委員会について1点、意見を述べさせていただきます。

SDGsはUNで2015年に採択され、日本政府も平成28年からSDGs(持続可能な開発目標)推進本部を立ち上げております。

江別市でも平成29年第1回議会にて議員が取りあげたり、平成30年度には大学連携事業で応募(不採択)などの経緯が江別市ウェブサイトでも確認できますが、市を挙げての取り組みがどのようになされているかは確認できません。

しかし実際に、江別市は、健康や福祉、食や子どもといったSDGsに関連するさまざまな課題に取り組まれております。

何か新しいことを考えなくてはならないかといえばそうではなく、行政改革についても取り組まれている課題のほとんどがSDGsに関連したものであることが確認できると思います。

次期行政改革推進計画に盛り込むことは難しいタイミングかもしれませんが、今からSDGsに関連しているという意識をもち、将来的には江別市がSDGsに取り組む自治体であることを他の自治体に先んじて発信して行くことが、江別市の将来にとって有意義なことではないでしょうか。

ただし、この問題は、次期行政改革推進計画だけの問題ではなく、行政改革大綱や江別市総合計画などから取り組むべき点であるかもしれないことをご了承ください。

【市の考え方】

SDGsと総合計画の関連について、先の市議会で

「市では、これまでも持続可能なまちづくりを目指し、環境管理計画、男女共同参画基本計画、平和都市宣言や健康都市宣言をはじめ、様々な施策に取り組んできたところであり、SDGsの目標には、総合計画の政策と関連する内容が、数多く盛り込まれていると認識しております。

こうしたことから、第6次江別市総合計画とSDGsとの関連付けにつきましては、他の自治体の事例等も参考にしながら、総合計画の政策を、市民にとって分かりやすく知っていただくための取組として活用することを、検討してまいりたいと考えております。」と答弁しております。

市といたしましては、まずは、総合計画において、SDGsとの関連をどのように対応できるか検討してまいります。

②藤岡委員

今後年々税収は減ることが予想される(財源の確保)

台風21号で倒れ1千万円を使って廃棄する予定だった倒木を地元企業が買い取った。

このためすでに予算化していた処理費は減額補正するとの記事が先日、道新で報道された。企業名は明らかにされなかったが、倒木はバイオマス発電の燃料にすることから、王子エフテックと推察された。双方の思惑が一致した結果であると思うが、実にありがたい話である。市がもし北電の電気を使用しているのであれば、今後、単価の安いバイオマス発電、太陽光、風力など自然エネルギーを積極的に利用して節税していく必要がある。

【市の考え方】

市では、これまで太陽光発電などの再生可能エネルギーの導入を積極的に進めてきたほか、地元企業が発電する木質バイオマスによる電力を市庁舎等で利用することで、電力コストの削減や電力の地産地消に取り組んでいるところです。さらには、市有施設や自治会防犯灯のLED化、江別の顔づくり事業における地中熱ヒートポンプによるロードヒーティングなどを進めており、今後もこれらの取り組みを進めることにより、低コストを意識しながら、環境にやさしいまちづくりを推進してまいります。